

## 医食同源の考えの下、 東西両医学を融合した 医療系大学に2027年4月、 農学部※を設置予定

※仮称・構想中

学校法人明治東洋医学院 明治国際医療大学  
理事長

谷口和彦

# 学

校法人明治東洋医学院は2025年に創立100周年を迎えました。1983年には四年制の明治鍼灸大学(現 明治国際医療大学)が開学し、東西両医学を融合した医療系大学として、看護師や急救救命士、柔道整復師、鍼灸師などの医療人を輩出。2027年4月には満を持して農学部 食農エコロジー学科(仮称・構想中)を開設する予定です。

医療系の大学がなぜ農学部なのか。医と農には明確な関連があります。私自身、大学とのダブルスクールで鍼灸

師と柔道整復師の資格を取得し、患者さんに対応してきましたが、痛めた機能を回復させるには、回復させやすい身体状況をつくる必要があります。そこに食生活が深く関わることを実感しました。それを端的に表したのが「医食同源」という言葉です。予防から治療まで医療において食は欠かせない要件であり、そのベースが農業に他なりません。心身の健康を支える安全な作物はどのように作られるのか。持続可能な有機栽培を中心に深く学び、そこを起点に食全般について考える学部です。

農学部には、高校生だけではなく、農業に関心をもつ社会人や留学生、さらには強化指定クラブのサッカー部をはじめとした運動部系の学生などの入学も期待しています。スポーツを続けながら医療資格の取得を目指すなど、「医療×スポーツ」を掲げる本学では、運動部の学生に、スポーツ特性に応じた食事の提案や指導もしています。

アスリートにとって食や農への関心は高いはず。看護学部との連携も密に行います。患者さんの栄養指導をするのは管理栄養士でも、毎日の食事の見守りをしているのは看護師であり、食や農の知識は不可欠です。既存の学部とも連携した医療系大学ならではのカリキュラムを展開する予定です。

農の担い手を養成することは、高齢化が進む地域の活性化にも繋がります。これまでも本学は、学生が地域と共に暮らす、居住型キャンパスを目指してきました。そのため運動部を中心に寮を整備してきましたが、この機会に拡充。シェアハウスとして暮らせるよう古民家などの空き家を利用するほか、自宅から通学する学生が実習などで忙しい時期に寝泊りできるよう、行政の協力の下、近隣の小学校跡地をゼミナールハウスに改築する計画も進行中です。この地で暮らす喜びを実感できるよう、祭りや行事に参加しやすい状況もつくってまいります。

夢は膨らみます。地域と連携した農業法人を設立することで、近隣の農家が人手が足りない時期に学生を派遣する仕組みも考えています。単なるアルバイト先の斡旋ではなく、学生が現場で学び、収益も確保できる道筋をつきたいのです。大学周辺にある手付かずの土地を一定の条件下で借り、希望する学生が家庭菜園の延長の感覚で野菜や果樹などを栽培する場にもしたい。良いものが収穫できたら産業化することもあるかもしれません。こうした土地に根差した生きた学びができるのも、都市部から離れ自然豊かな環境にある本学の強みです。



**理事長プロフィール** たにぐち・かずひこ ●1957年生まれ。関西大学経済学部卒業。大学在学中に明治鍼灸柔道整復専門学校(現 明治東洋医学院専門学校)で鍼灸師および柔道整復師の国家資格を取得。明治鍼灸大学事務局長、明治国際医療大学教授、明治東洋医学院専門学校校長などを経て2014年6月より現職。現在、公益社団法人全国柔道整復学校協会会長も務める。

**大学プロフィール** 1925年山崎鍼灸学院創設。1983年明治鍼灸大学開学。2008年明治国際医療大学に改称。看護学部(看護学科)、保健医療学部(急救救命学科、柔道整復学科)、鍼灸学部(鍼灸学科)に加え、大学院鍼灸学研究科、保健医療学研究科を擁する。キャンパス内に附属病院や総合リハビリテーションセンター、附属鍼灸センターを併設。京都府南丹市。同一学校法人として大阪府吹田市に明治東洋医学院専門学校(鍼灸学科、柔整学科、教員養成学科)がある。